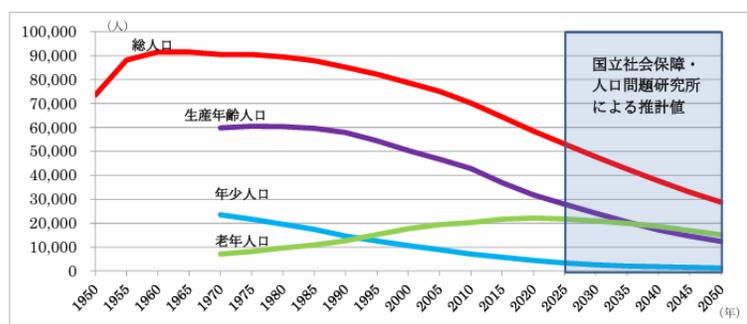


### ◆銚子円卓会議とは!?

銚子円卓会議とは、行政・企業・団体・個人など多様なまちづくりの主体を結びながら「協働のまちづくり」を推進する民間主体のまちづくり中間支援組織です。

千葉財務事務所では、銚子円卓会議を訪問し、代表理事の松岡氏と協働事務局の西田氏から、地域を元気にしていく取り組みを取材しました。

### ◆銚子市の人口の推移



資料：総務省統計局「国勢調査」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口（令和5年推計）」

- ▶総人口は、1965年をピークに減少を続けています。
- ▶生産年齢人口は、1970年代中頃をピークに減少に転じ、1990年代からは減少の加速度が増しています。
- ▶年少人口は、長期的に減少傾向が続いており、1990年代前半には、老年人口を下回りました。
- ▶銚子市は、古くから、水運、漁業、醤油醸造業などにより、たくさんの働く場所が創られ、その仕事を求めて人が集まり、まちが形づくられてきました。しかし、現在では**少子高齢化の影響を強く受けている状況**にあることがわかります。

【参考：銚子市HP】

### ◆2013年に活動を開始

#### ▶名称に込められた「円卓」の意味とは・・・?

「銚子円卓会議」は、円卓であれば四角いテーブルと異なり上下関係が生じにくく、**誰もが対等な立場で自由に意見を交わせる場になる**という発想から名付けられ、このマークはプロジェクト理念を体現しています。



▲銚子円卓会議のマーク

その後、2024年には運営基盤を強固なものにするために一般財団法人化し、**より気軽に寄付や参加をしやすい組織**を目指し、現在も日々活動しています。

### ◆主な活動内容と実績

#### ▶銚子円卓会議の3事業

銚子市のまちづくりに活かせる諸資源を、横断的に発掘・育成し、架橋・循環させていくことによって、市民一人ひとりがしあわせを感じて暮らす「魅力と活力あふれる地域社会」の創造に寄与していくことを目指し、

#### ★寄付活動「この指とまれ!プロジェクト」

#### ★共助のローリングストック「OSUSOWAKE」

#### ★ローカルキャリアデザイン「DELKUI」

の3事業を柱に展開しています。

#### ▶数々の賞を受賞!!

- ・千葉県知事賞 (令和3年度ちばコラボ大賞)
- ・農林水産省大臣官房長賞 (第13回食品産業もったいない大賞)
- ・内閣官房長官賞 (令和7年度あしたのまち・くらしづくり活動賞) ▲



### ★寄付活動 この指とまれ!プロジェクト

#### ～寄付でつなぐ地域の挑戦と応援～

#### ▶寄付で挑戦を後押し

「この指とまれ!プロジェクト」は、**役割を固定せず、誰もが「応援する人」「応援される人」になれる社会**を目指しています。「ほっとけない!」「こうしたら地域はもっと良くなる!」そんな思いを**寄付という形で後押し**する仕組みです。



▲代表理事 松岡氏

▲協働事務局 西田氏

#### ▶挑戦と応援が生まれ続けるように

地域通貨「すきくるスター」での寄付を皮切りに、募金箱の設置や地元企業による寄付商品の販売など、応援の方法を広げてきました。2025年までに19のプロジェクトに約280万円超を橋渡しし、地域の挑戦を支えています。

お金だけでなく、「知恵」や「時間」の投資も呼びかけており、松岡氏は「挑戦と応援が生まれ続ける土壌を耕したい」と語り、地域に新たなつながりを育む活動は今後も続きます。

#### ▶団体同士の交流の場

年に1度、寄付金をプロジェクト参加団体に渡す場を設け、全団体が集まり活動状況や課題を共有することで、互いの取り組みを知り、同じような活動を行う団体同士や異業種の団体間でコラボするきっかけを生みだしています。

## ★共助のローリングストック OSUSOWAKE～銚子から日本全国へ～

### ▶日本初の新しい防災スタイル

「OSUSOWAKE」とは、**地域資源の循環と多様な企業・自治体との連携を目指す取り組み**です。銚子発、日本初の「ローリングストック2.0」と呼べる新しい防災スタイルとして、全国に広がる可能性を秘めています。

### ▶防災のための備蓄で地域とのつながりを深める

参加費3,000円で銚子ならではの特産品を備蓄品として銚子円卓会議と地元企業に託します。災害発生時には協定先の被災地に届け、災害が発生しなければそのまま参加者の手元に戻る仕組みです。こうして、参加者は日常的に備蓄を意識しながら地域とのつながりを深めることができます。

とりわけ、この備蓄品は**災害発生時の緊急必需品ではなく、避難が一段落した時に避難者が「ホッとする」物資**であることが特徴的です。

### ▶能登半島地震で「OSUSOWAKE」を実施

2024年には能登半島地震で被災した石川県珠洲市の方々に向けて、第4期備蓄品を支援品として届けました。

### ▶“OSUSOWAKE”を日本全国へ…！！

代表理事の松岡氏は「“OSUSOWAKE”を通じて、防災を日常に取り込み、地域内外の良質なつながりを広げたい」と語ります。さらに、今後は地域の魅力を活かし、備蓄と支援を両立する“OSUSOWAKE”の仕組みが全国各地で立ち上がり、銚子市以外にも広まっていくことを目指しています。



## ★ローカルキャリアデザイン DELKUI～地域と若者を結ぶキャリア教育～

### ▶「出る杭を伸ばす」

「DELKUI」では、概ね10代から20代前半の若者と地域とのつながりを育み、**個人と地域を結ぶキャリア開発プログラム**を作成・実施しています。

### ▶教育の機会の創出

企業と学生の対話の場づくり、インターンシップやプロボノ活動の推進、さらに地域と若者をつなぐコーディネーターの育成にも力を入れています。

### ▶若者が地域で活躍するきっかけに

キャリア教育では、若者が直接銚子市で起業することにこだわるのではなく、**将来どこにいても「何かあったら銚子市に協力したい」と思ってもらえるような関係性**の構築を目指しています。

このように地域に根ざしたキャリア教育を広げ、若者が地域で活躍するきっかけを生み出しています。地域と若者の双方にとって、未来を切り拓く新しいプラットフォームとして期待が高まっています。

## ◆これからもいい銚子！目指すものとは・・・

### ▶「人と地域のwell-being」

コロナ禍を経て顕在化した世代・業界・立場の違いなどの「分断」を「融和」へと導くため、創意工夫を重ねて多様な主体を結びつけます。

松岡氏は「銚子市は、水揚げ量をはじめ“日本一”を誇るものが多い一方、どこか垢抜けない印象を持たれがちです。しかし、**もともと銚子は“日本の出る杭”で、その強みや個性を活かせば、さらに成長していける地域**であり、銚子円卓会議は人と地域の well-being を追求し、そうした潜在力を引き出し、協働によるまちづくりを進めていきたい。」と語ります。【参考：銚子市HP】



◀東に突き出た地形

## ◆銚子を支える企業も訪問！！

### ▶株式会社 櫻井謙二商店

地域密着型の食料品卸売業として、家庭用・業務用を問わず地元スーパーや飲食店に加工食品を安定供給する「裏方」の役割を担ってきました。

### ▶食を支える存在として「安心できる暮らしを創る」使命

4代目代表取締役社長の櫻井公恵氏は、飲料・油脂・醤油をはじめ各種缶詰や冷凍食品に至るまで広範な商品を取り扱い、生活に欠かせない食を届ける「黒子」であることが使命と語ります。

### ▶「365日地域を支える」

東日本大震災や台風による被害を受けた際にも、配送体制を止めず、**非常時にこそ地域を支えてきました。**

また櫻井氏は、**銚子円卓会議の理事**を務めており、女性社長として出前授業に協力し講演するなどして地域の中学・高校のキャリア教育にも積極的に関わっています。

### ▶社員が働きやすい職場環境

時期により忙しさが変動する業務特性を踏まえ、社員の採用時にはメリハリのある働き方であることを率直に伝え、ミスマッチを防いでいます。雇用形態も臨機応変に対応しており、それぞれの事情に応じて社員の理解を得ながら人員配置を柔軟に調整するなど、会社や社員のために工夫をしています。



▲4代目代表取締役社長兼銚子円卓会議理事 櫻井公恵氏



▲櫻井社長へのインタビューの様子